

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

事業課題名	オムニバス講義(歴史認識)
代表者名	永井和(文学研究科教授)・落合恵美子(文学研究科教授)
事業概要 (600 字程度)	<p>文学部・文学研究科の特殊講義として「戦争と植民地をめぐる歴史認識」を 26 年度後期に開講した。この講義は、東アジアの日、中、韓・朝間での「歴史認識問題」を中心とし、そこで焦点となっている慰安婦問題など過去の歴史についてより正確な事実を学ぶものである。あわせて、これら三国の間での歴史認識の差異にとどまらず、より広く現代世界における「歴史認識問題」とくに過去の戦争や植民地支配の記憶をめぐる問題について考える手引きとなるようにオムニバス形式で提供した。講義担当者は永井和(文学研究科、以下、学内教員については部局名のみを記す)・金富子(東京外国語大学)・水野直樹(人文科学研究所)・山下英愛(文教大学)・堀和生(経済学研究所)・永原陽子(文学研究科)・石川禎浩(人文科学研究所)・高嶋航(文学研究科)・赤澤史朗(立命館大学)・押川文子(地域研究統合情報センター)・池内敏(名古屋大学)・小山哲(文学研究科)・平田昌司(文学研究科)の 13 名であり、そのうち学外からの 4 名に対して旅費・謝金を支出した。本講義は、全学の研究科横断型教育プログラムとしても提供した。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>毎回の講義終了後、受講者が書いたコミュニケーションシートの内容を担当講師にフィードバックした。学期末には学内講師 9 名が提示した課題から受講者が選択してレポートを執筆・提出し、出席点と総合して成績評価をおこなった。正式に履修登録した学生以外の傍聴者を含めると、毎回 60 名から 100 名程度の人数が授業に参加し、歴史認識問題に関する理解を深めた。講義終了後には、非常に積極的に質問が出ることもあった。</p> <p>学内の教員にとっても、歴史認識に関して、東アジアのみならず南アジア・アフリカ・ヨーロッパまで含めた系統的な講義を企画するのは初めての経験であったが、相互の協力によって教育の成果をあげることができた。学外から招聘した金富子・山下英愛・赤澤史朗・池内敏の 4 名の講師は、東アジアにおける歴史認識問題について、それぞれの問題が生じるに至った時代背景まで含めて説明し、歴史的に正確な事実を把握するための手がかりを提供された。</p> <p>本講義は、担当者に占める学内教員の比率を高めたうえで平成 27 年度後期にも継続開講し、パレスチナなど 26 年度にはとりあげることでできなかった問題も新たにあつかう予定である。</p>